

令和4年度 西区幼保小連携推進協議会だより <第1号>

つながる 249

これまで積み上げてきた取組の充実を願って命名しました。

西区幼保小連携推進協議会代表者会 令和4年6月20日発行

令和4年度、西区の幼保小連携推進協議会がスタートしました。今年度は、区ごとに企画実施してきた取組を全区共通の内容で行うこととなり、札幌市全体で幼保小の連携・接続の意義やそれによる子どもの豊かな育ちについて学ぶ機会を一層充実させることになりました。

第1回目は、5月31日「ちえりあ6階講堂」にて集合形式で開催され、久しぶりに近隣の幼保小が顔を合わせることができました。ブロックに分かれての研修では、限られた時間ではありましたが、それぞれに感じたこと、考えたことを交流することができました。また新たな取組の始まりです。

◆令和4年度テーマ

学びをつなぐ幼保小連携・接続
～幼児期の教育と児童期の教育の理解を深める～

■第1回目は「知る」がキーワードです

- 幼保小連携・接続がなぜ必要なのか。
- 幼児期の学びを踏まえた小学校の教育とはどのようなことか。
 - ・幼児教育センター指導主事から新体制等について説明、周知。
 - ・講演終了後にブロックで顔合わせ、講演内容等について意見交流

講演 「学びをつなぐ幼保小連携・接続」
幼保小連携・接続～具体と課題を知る
講師：札幌市立三角山小学校 校長 渋谷一典氏



<研修を終えて～アンケートの声>

- ・ブロックの人数が少なくなったので話しやすい。
- ・久しぶりに対面で意見交流することができ有意義だった。
- ・近隣で顔を合わせることができ、連絡しやすい関係づくりができた。
- ・お互いに「発信」が大切であることが確認できた。
- ・幼、保、小、それぞれに大切にしていることを聞くことができた。
- ・入学前の保護者の気持ちを聞くことができた。
- ・学びの視点からのつなげ方を考える機会となった。具体を考えていくことが大切である。

次回のお知らせ

10月19日(水)
15:00～16:45

キーワードは

「学ぶ」です。

場所は、ちえりあを
予定しています。



子どもの入学前後の情報交換

- ・入学後の様子を知りたい。
- ・不安感の強い子が増えている。
- ・コロナ禍で、なかなか引き継ぐことができなかった実態がある。
- ・一日入学が中止になっている。オンラインICTの活用で対応している。不安そうな保護者の姿がある。
- ・小学校の側から幼保の保護者に入学について話す機会があっても効果的ではないだろうか。
- ・小学校側の窓口は連携担当で、その後、学年担任へつながる。

交流活動の充実

- ・相互に交流を求める気持ち強い。
- ・特別な行事以外にも、普段の学習や生活の様子を知りたい。
- ・互いに見たり知ったりする機会がほしい。

教職員の相互理解

- ・教師が園や学校を見に行くのは教育活動の相互理解からも必要ではないか。
- ・小学校の楽しい様子を見てほしい（ビデオ等）。リモートなどで1年生の授業をつなぐ等、コロナ対策の中でもできることがある。
- ・入学前に得た情報を基に、入学後の様子を見てもらう場がほしい。
- ・幼保が聞きたい内容を知ることが互いに理解を深める一歩である。
- ・生活の違いも知り合う必要がある。
- ・他園との交流も必要である。

幼保小一貫性のある教育活動

- ・年長児は自信を付けて入学を迎えている。「できる」が増えると安心につながる。楽しいにつながる。
- ・入学後の6年生との関わりは、6年生を育てる部分で必要な経験であり、バランスが難しい。
- ・小学校では、自主性がなかなか発揮されず、管理的な部分が入ってくる。幼保は子どもたちが選んで活動している部分もある。
- ・幼児教育側と小学校でお互い何をしているか見合い、知ることが大事である。幼保小で実際にやっている活動を知りたい。
- ・園によって特色が違う。子どもたちのギャップをどのように埋めていくのか。

・連携、接続の状況は？
・今後できることは？

スタートカリキュラム

- ・事前につながる場があるとよい。「遊びで学ぶ」ことをスタートカリキュラムに取り入れていきたい。
- ・小学校側に課題を感じる。自主性を育むような教科指導教育課程の組み方の見直しが必要。
- ・小学校が幼保に寄り添ってきている。一貫性のある教育活動が進められてきている。

学びの連続性

- ・幼児期は遊びの中で数の概念に触れたり感覚を養ったりしていくとよいのではないかと。思考力、判断力、想像力は幼小中とずっとつながって大事なことである。
- ・学習に向かう姿勢を知っているとよい。
- ・小学校では時間割での生活となっていく。幼児期は、興味関心を高め、夢中になって遊ぶ経験を十分にできる環境である。小学校以降につながる学びがそこにあるだろう。